

平成 29 年度事業報告書

平成 29 年 8 月 1 日から平成 30 年 7 月 31 日まで

■ 第 12 期（平成 29 年度）の総括

今期は、近年の取り組みの集大成の 1 年と位置づけたプロジェクトを実施した。

1 つ目に、「対話の場を問い直す」取り組みである。場とつながりの研究センターが設立以来取り組んできた「対話によるまちづくり」は、異なる立場や経験のある人が集い、お互いの違いを大切にしながら未来志向で話を深めていく会議体・交流会のひとつの形態である「フューチャーセッション」のアイデアを加え進めてきた。先駆的な実践者を 2 年続けてお迎えし、研究を深め、関西学院大学総合政策学部「都市政策演習 2」において実践するなど、各種テーマでの場づくりにフューチャーセッションの要素を盛り込みながら企画を実施してきた。

2 つ目に、「まなびあ」で培ってきた学習支援の取り組みで蓄積したノウハウを、これから立ち上げたい人向け、また、立ち上げた後の展開を考えたい人向けに、それぞれ冊子化した。三田市は 2017 年夏に「子育て世帯の経済状況と生活実態に関する調査」を実施し、市内の子どもの貧困の実態調査を行ったが、「子どもの貧困」という課題はまだまだ潜在化している。「地域にさまざまなタイプの居場所ができ、それらがゆるやかにネットワークをつくることで地域の子どもの貧困に向けた予防的取り組みが行える」と考え、「地域のつながりを活かした子どもの居場所づくりを目指す取り組み」を水平展開・立ち上げ支援に取り組みたい。

事業面では、会計業務を中心とした事務代行業が事業収益増に大きく貢献している。一方で、2015 年 4 月からお世話になってきた（公財）ベネッセこども基金の助成が 3 月末をもって終了し、「まなびあ」をはじめとした子ども支援事業に関する予算獲得は課題が残っている。「遺贈資源仲介」についても十分な成果を得られずに終わってしまったが、社会的に必要性が強まってきており、改めて今期には取り組んでいきたいと考えている。また、会員による、当団体の強みを活かした「プロジェクト立ち上げ支援」も継続的に実施していきたい（例：神戸市北区における日本語教室開設事業）。

経理面では、わずかながらではあるが黒字で終えることができた。一方で、収益事業の担い手が事務局長のみで、管理業務の進捗の見える化が課題として残っている。経理の信用性を高めるための工夫を考えたい。

日常活動やイベントへの「ボランティアの参画」が当団体には多く、日々の取り組みへの源泉となっている。ほんまち事務所には引き続きボランティアの新納晃納さんが毎週木曜日事務所を開放し、来訪者を受け入れてくださっている。一方で、学生メンバーの卒業に伴う新規メンバー募集も必要であり、学生に限らず当団体とゆるやかに関わることが楽しいと思ってもらえるような人が増える取り組みが必要である。多くの人意見やアイデアを取り入れながら、誰もが訪れやすい団体づくりを目指し、「ここに来れば何かのアイデアや元気がもらえる」と思える場を作り上げていきたい。

■ 特定非営利活動に係る事業の実施について

1. 市民活動や運営に関する相談事業 (収益 H29 : 897 千円、H28 : 588 千円)

市民活動に関する幅広い相談支援を実施。ひょうごボランティア基金の助成を受け、相談料は半額の1回1,000円(初回無料)で実施。相談依頼者は市内の市民活動団体だけでなく、行政・社協、そして地域団体からの相談が増えている。

1.1. 市民活動団体・法人設立支援

市民活動団体やNPO法人設立を希望する団体を支援。主に、申請書類作成や運営組織体制づくり、事業報告書作成支援、労務・登記に関するアドバイスをした。

1.2. 団体運営・マネジメント支援

事業企画の立案や継続、運営体制のあり方についてのアドバイス、NPO関連の制度や事例、助成金等の情報提供、広報の相談支援、人材のコーディネートを実施した。

(主な実績)

- NPO法人アングス・フリット：企画づくり支援
- NPO法人保育ネットワーク・ミルク：運営全般支援、認定NPO取得支援
→ **H30年3月に認定取得**
- NPO法人さわやか北摂(川西市)：新規法人設立および認定NPO取得支援

1.3. 事務作業支援

NPOの事務作業を一部代行して実施。特に会計に関する相談が増えている。

(主な実績)

- NPO法人言語障害者の社会参加を支援する会しゃべろーよ：会計事務支援
→ H30年6月で終了
- NPO法人三田市手をつなぐ育成会：会計事務および請求事務支援
- NPO法人歴史文化財ネットワークさんだ：会計および事務全般の支援
→ H30年4月より受託・拡充

2. 市民活動に資するネットワーク形成事業 (収益 H29 : 255 千円、H28 : 371 千円)

2.1. まちなか交流企画

(1) まちカフェ

偶数月 1 回、全 6 回開催。大島がコーディネータを担当し、特にテーマを決めずにざっくばらんな会話を楽しむ時間を提供した。ここでの参加メンバーが、まつりイベント等での出店やさまざまな活動でのボランティアとして活躍していただいた。



(2) まちの読書会

奇数月 1 回、全 5 回開催 (H30 年 7 月は台風で中止)。書籍に関連するテーマにおいて、自身の身の回りで起きていることとリンクさせながら、まちのこれからについて考えた。事務局だけでなく参加者から書籍・著者の提案をいただくことができたこともあり、より多様なジャンルが実施でき、結果として定期的な参加者に加え、新しい参加者を呼び込むことができた。



(実施状況)

回	実施日	書籍名 (出版年)	著者	参加者数
①	2017 年 9 月 16 日	サイコパス (2016)	中野信子	6 人
②	2017 年 11 月 25 日	人口減少時代の土地問題～「所有者不明化」と相続、空き家、制度のゆくえ (2017)	吉原祥子	5 人
③	2018 年 1 月 20 日	「司馬遼太郎」で学ぶ日本史 (2017)	磯田道史	6 人
④	2018 年 3 月 31 日	人工知能の核心 (2017)	羽生善治	6 人
⑤	2018 年 5 月 12 日	未来の年表～人口減少日本でこれから起きること (2017)	河合雅司	5 人
中止	2018 年 7 月 7 日	教養は児童書で学べ (2017)	出口治明	—

2.2. 夏まつり (三田まつり) / 冬まつり (あきんどまつり) での店頭販売

夏と冬の商店街でのイベントに、商店街の一員として参加。事務所前にて、夏はわた菓子とかき氷、オムフランク、ゲームコーナーを、冬はわた菓子、焼き芋を販売した。リピーター率も高く、我々の店舗として定着しつつある。当日の運営は日常的な関係者に加え、まなびあに来ている子どもたち、この日のために集まるメンバーもいて、賑やかに開催した。

2.3. シェアオフィス・コワーキング

ほんまち事務所を他団体とシェアし、その家賃収益を計上。三田市文化協会と三田市手をつなぐ育成会が入居している。

2.4. 三田まちの寺子屋「まなびあ」の運営【公益財団法人ベネッセこども基金助成事業】

地域の子どもを地域で支える仕組みづくりを目指し、主に生活困窮家庭・ひとり親家庭のこどもや不登校児者の学校外教育の提供を目的に、地域住民と協働で平成 25 年 8 月に立ち上げ。共働き家庭をはじめとしたすべての子どもの、放課後の居場所としてもテーマを拡大し、運営している。また、2017 年 4 月からは三田地区民生委員・婦人会と協働し、子ども食堂「まかないキッチン」にも取り組んでいる（右写真）



（スタッフ）

子どもたちの学習支援を担う「まなびサポーター」には、中嶋和哉さんをはじめ三田在住の 20-40 代メンバーに加え、一般市民、ボランティアサークル「SSV 関西学院」のメンバーとともに運営している。月 1 回程度の定例会を開催し、情報共有や対応を議論した。

（広報）

運営委員の大東真弓さん（三田小学校区学校支援ボランティアコーディネーター）の協力のもと、三田小・三輪小・武庫小・松が丘小・富士小等にチラシを配布して PR した。また、関心を持つスクールカウンセラーや、三田市社会福祉協議会「経済的困窮家庭対象の心配事相談」事業（三田市権利擁護・成年後見支援センター）と連携し、必要な家庭への情報提供や子どもの紹介が行われるよう関係づくりができた。また、日頃の様子は Facebook でも発信している。（右の QR コードからページ参照）



（費用）

初動費用には、独立行政法人福祉医療機構の平成 25 年度助成金を活用。平成 26 年度はボランティアによる運営を続けてきたが、平成 27 年 4 月より公益財団法人ベネッセこども基金の助成を受け事業を展開。平成 30 年 3 月まで助成をいただいた（最終年）。他には、gooddo 社によるクリック募金（平成 30 年 1 月終了）に加え、地域からの資金（寄付金、協賛金等）を集めて運営している。

	開設時～	平成 26 年 4 月～	平成 26 年 7 月～現在
実施日	水曜 15:30～18:30 土曜 13:30～16:30	水曜 15:30～18:30 金曜 〃	
場 所	三田ほんまち交流館「縁」		三田小学校区県民交流広場 「じばやんクラブ」
利用者数	小学生～高卒生 平均 4 人	小学生～高卒生 平均 3 人	小学生～高卒生 平均 7 人

3. 市民活動に資する人材育成事業 (収益 H29 : 303 千円、H28 : 292 千円)

3.1. 自主セミナー開催

(1) 「地域の子どもを地域で支えるために、今、改めて考えたいこと」

【公益財団法人ベネッセ子ども基金助成事業】

「子どもの貧困」や子どもや家庭の地域での孤立などの地域課題に関心ある住民に対し、子どもの貧困に関連するキーワードにまつわるゲストをお招きした講演会および参加者同士でディスカッションを行うことで、三田での子どもを取り巻く状況を見つめなおし、三田でもできる身の丈にあった取り組みを考え、具体的な行動へのはじめの一步の動機を促進することを目的に開催した。



テーマ	今、改めて考える 「子ども本位の支援」とは?	今、改めて考える 「支援者のことばづかい」とは?	今、改めて考える 「発達障害」との関わり方とは?
実施日	2017年12月3日(日) 13:30-16:30	2017年12月17日(日) 13:30-16:30	2018年1月21日(日) 13:30-16:30
会場	さんだ市民センター 講座室	まちづくり協働センター 講座室	まちづくり協働センター 講座室
ゲスト	NPO 法人スマイルひろば 小倉祐輔氏	さんだCAP 橋上浩子氏	さんだ子ども発達支援センター 「かるがも園」 平井真由美氏
参加数	10人	6人	6人
当日の内容	「子どもを中心に据えた地域づくり」の取り組みが増える中で、大人の都合に子どもをあわせていることになっていないか、という視点を大切に取り組むゲストをお招きし、「子どもに寄り添うとはどういうことか？」を考える学習会を開催した。	「子どもの人権」を考えるワークショップを開催。基本的人権を「生きるために絶対に必要なもの」と説明し、子どもの特別に大切な3つの権利「Safe(安心)、Strong(自信)、Free(自由)」を理解することで、その持つ意味を考えた。	「発達障害」は近年知られるようになってきたものの、まだまだ誤解が多い。支援者として何を意識する必要があるか、また、彼らの「きょうだい」に地域にこそできる「家族との関わり方」を考える学習会を開催した。

(2) フューチャーセッション「地域の子どもたちを地域で支えるために、考えること」

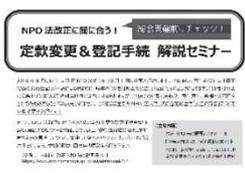
【公益財団法人ベネッセこども基金助成事業】

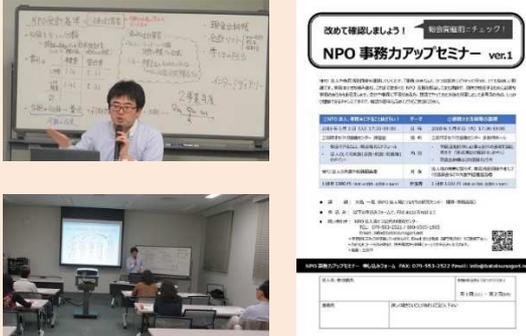
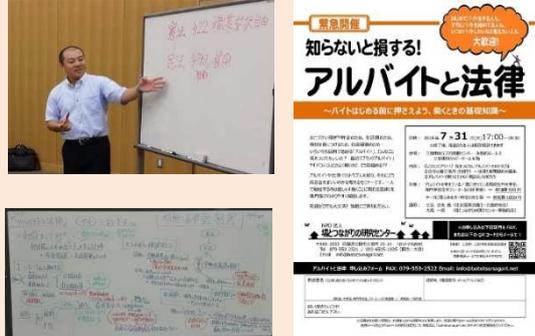
子どもを取り巻く社会課題を自分ごととして意識してもらえるよう「対話」を通じた意見交換とアイデアが生まれるような場づくりを行った。

テーマ	子どもが「いきいき育つ」ために、わたしたちの地域ができることを考えよう	
実施日	2018年2月25日(日) 13:30~16:30	
会場	三田市まちづくり協働センター 多目的ホール	
参加数	9人	
会場の様子	  	

(3) 改正 NPO 法講座 & NPO 事務セミナー vol.1 【ひょうごボランティア基金助成事業】

NPO 法人を対象に、組織運営に必要な情報やスキルを提供することを目的に開催した。

テーマ	NPO 法改正に間に合う！ 定款変更 & 登記手続 解説セミナー	NPO 事務力アップセミナー ver.1 ~NPO 法人、年度末にやること総ざらい！~
実施日	2018年4月17日(火) 17:30-19:00	2018年5月1日(火) 17:30-19:00
会場	まちづくり協働センター 講座室	まちづくり協働センター 講座室
参加数	10 法人・団体 / 14人	4 法人・団体 / 7人
会場の様子	   	   

テーマ	NPO 事務力アップセミナー ver.1 ～信頼される経理の基礎～	知らないと損する！アルバイトと法律 ～バイトは始める前に押さえよう、働くときの基礎知識～
実施日	2018年5月8日(火)17:30-19:00	2018年7月31日(火)17:00～18:30
会場	まちづくり協働センター 多目的ホール	まちづくり協働センター 多目的ホール
ゲスト	なし	三谷 文夫 氏(社会保険労務士)
参加数	3法人・団体／5人	5人
会場の様子		

(3) 「まなびサタデースクール」開催 【公益財団法人ベネッセこども基金助成事業】

三田まちの寺子屋「まなびあ」から派生した事業で、子どもたちのさまざまな「まなび」を促すための企画を実施した。当団体の人材ネットワークや経験値を活用して、ボランティアサークル「SSV 関西学院」のメンバーが主に企画立案を担った。

①はじめてのプログラミング

子どもたちのプログラミング的思考力（仮説検証型思考法）の向上を目的として「はじめてのプログラミング」を定期的で開催。子どもの成長を願うメンター（ボランティア）からのさまざまなアドバイスもあり、より興味深い作品を子どもたちは作っている。参加者及び保護者からの反響もあり、継続的に開催している。

※参加者の作品アトリエ：<https://scratch.mit.edu/studios/1741552/>（要 ID 登録）

実施日	参加人数
2017年8月26日	3人
2017年11月11日	8人
2018年1月13日	10人
2018年3月25日	6人
2018年5月20日	9人
2018年7月8日	11人



まなびサタデースクール 詳細版 (2017年8月~2018年7月) ※所属・学年は実施当時

企画名	ぼくらのダンボール文明展	風の空上げ ~みんなでつなぐ 人の輪~
目的	ダンボールの切り貼りではなく、水に浸して糊付けしながら立体物「仮面」を自由に作ることを通して、自己表現することの楽しさと難しさを感じてもらうことを目的に開催した。	伝統文化に触れる機会を作るとともに、デザインした風をうまく飛ばすための工夫をみんなで考え、仲間とともに取り組んだ達成感をわかちあうことの喜びを感じてもらうことを目的に開催した。
実施内容	ダンボールアート (仮面づくり・ワニづくり)	風作り・風揚げ
実施日	2017年11月5日(日)10:00~16:00	12月10日(日)13:15~16:15
実施場所	さんだ市民センター 陶芸実習室	有馬富士共生センター
参加者数	1人	9人
当日の様子	 	 
企画担当者	中嶋和哉(まなびあスタッフ) 兼古英和(大手前大学2年生)	赤尾奈美(関西学院大学2年生) 西口明里(関西学院大学2年生) 廖 思超(関西学院大学3年生)

企画名	30秒クリエイターズ Part2 ~トリック動画を作ろう	おるすばんごはん ~ひとりでもへっちゃら！ サバイバル料理対決
目的	誰かと一緒に何かを達成する喜びや、言葉と言葉以外の方法を組み合わせてさまざまな方法で相手に伝えることの楽しさを子どもたちに伝えることを目的に開催した。	ひとりで留守番をするときに自分の食事は自分で作れるようになってほしいと願って、手持ちの資源・予算から即席料理を考えて実際に作る体験をすることを目的に開催した。
実施内容	映像制作手法を用いた、トリック動画撮影	献立作り、買い物、料理づくり
実施日	2018年2月24日(土)13:00~17:00	2018年5月20日(日)10:30~13:30
実施場所	さんだ市民センター	まちづくり協働センター 調理実習室
参加者数	9人	11人
当日の様子	  	  
企画担当者	具志恒陽(関西学院大学4年生) 寺川 諒(関西学院大学4年生) 合月七海(関西学院大学4年生)	大島一晃 下村宜生(三田プレーパークプロジェクト)

3.2. 委託セミナー開催

自分の中の「キラリ」を見つけよう！！～キラリカルタ（2018年7月23日）

【キャリアコンサルタントグループ「w!sh」と共催】

キーワード書かれたカルタを使って参加者同士での対話を通して、「自分らしさ」を感じ、人とのちがいに気づき許容する気持ちを育むことを通して、自己肯定感の向上に寄与することを目的に開催。子どもたちのキャリア教育の一環として実施した。



3.3. 講師派遣

実施日	内容	主催者	場所
2017年8月 (全4回)	さんだシニアカレッジ [ゲスト] 渡利幸司さん、寺川諒さん、 尾崎知弥さん	三田市	藍市民センター ウッディ市民センター さんだ市民センター フラワー市民センター
2017年8月26日	さんだ幸せプロジェクト 子どもの貧困の現状と、自分にできること	三田市人権を考える会	三田市役所
2017年9月9日	認定NPOのツクリカタ	NPO法人 宝塚NPOセンター	宝塚市立男女共同 参画センター
2017年9月20日	一般社団法人設立と運営セミナー (メンバー研修)	NPO法人 三田市手をつなぐ育成会	総合福祉保健セン ター
2017年9月28日	地域福祉支援員職員研修「子どもの貧 困」の現状と、わたしにできること」	三田市社会福祉協議会	総合福祉保健セン ター
2017年11月17日	市内中学校教育部会研修 「まちの居場所づくりとまなびあ」	三田市中学校教育部会	三田じばやんクラブ
2017年12月22日	地域福祉支援員職員研修～子どもの「気 になる」を拾い、「資源につなげる」とは?	三田市社会福祉協議会	総合福祉保健セン ター
2018年2月28日	子どもの「集い場」ボランティア養成講座 「子どもを取り巻く現状と、わたしにできること」	三田市社会福祉協議会	総合福祉保健セン ター
2018年5月23日	NPO法人の事務セミナー (メンバー研修)	NPO法人 三田市手をつなぐ育成会	総合福祉保健セン ター
2018年6月27日	緑が丘まちづくり勉強会 これからの「居場所」づくり	(一社)三木市生涯学習 活躍のまち推進機構	三木市緑丘公民館
2018年7月14日	ボランティアオリエンテーション「子どもに 寄り添うとは? 子どもとの関わり方を知る」	三田市社会福祉協議会 (ボランティア研修)	多世代交流館 「ふらっと」
2018年7月27日	認定NPOのツクリカタ	NPO法人 宝塚NPOセンター	伊丹市立まちづくり プラザ

また、三田市立八景中学校より、学力重点支援生徒を対象とした「がんばりタイム」への数学指導員派遣の要請を受け、2016年7月から年間40～50回程度、指導員を派遣している。

(中嶋和哉さん、下村宜生さん、尾崎知弥さん、大島)

4. 市民活動に関する情報発信事業（収益 H29：0千円、H28：0千円）

4.1. メールニュース発行

主に毎月1～2回メールニュースを配信。主催事業の案内に加え、助成金情報、地域イベント情報を無料で掲載している。現在187人に直接送付（前期末比8人増）、同内容をホームページやfacebookサイトに掲載している。地域イベント情報は、当団体のボランティアである新納晃重さんが、毎回文字入力してくださっている。

5. まちづくりに資する地域情報化事業（収益 H29：0千円 H28：0千円）

今期は実施なし

6. まちづくりに資するコーディネーション事業（収益 H29：千円、H28:16千円）

6.1. 地域の未来を対話する場「フューチャーセッション」促進事業

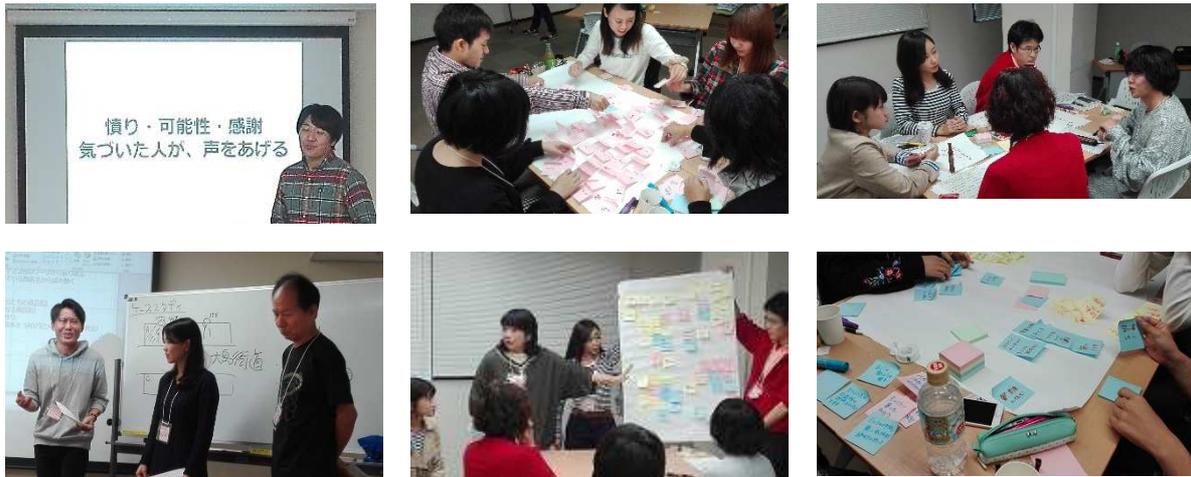
【ひょうごボランティア基金 中間支援事業助成】

複雑多様化した社会課題に対し、「自分ごと」としてとらえる多様な人たちがフラットに参加し、集まった知恵やノウハウからアクションを生み出す対話の場「フューチャーセッション」について、先駆的な取り組みを実践および支援している「静岡フューチャーセンターサポートネット・ESUNE」をお招きし、対話がまちづくりにどのような効果をもたらすのか、を考える学習会を開催。学生がまちの課題と関わり、解決案をともに模索していくプロセスについて学び、「ほんまちラボ」としての今後の取り組みについて大きな示唆を得た。これらのフューチャーセッションで得た知見をもとに、地域に「対話の場」の構築に取り組んでいきたいと考えている。



テーマ	目指せ、話し合いマスター	「対話」の意義と可能性を考えよう
実施日	2017年10月14日(土)10:00～16:45	2018年2月3日(土)13:30～16:30
会場	兵庫県中央労働センター	兵庫県私学会館
ゲスト	天野浩史氏（NPO 法人静岡フューチャーセンター・サポートネット ESUNE 代表理事）	同左
参加数	24人	5人

(当日の様子)



6.2. 地域の未来を対話する場「フューチャーセッション」促進事業

関西学院大学総合政策学部「都市政策演習 2 (長谷川)」の演習に協力。16人の学生に対し、「対話のまちづくり」をテーマにした演習を展開。人権・男女共同参画プラザ（運営：NPO 法人アングス・フリット）と共催で、「みんなでまちの未来を話そう、考えよう」と題した企画をまちづくり協働センターにて実施した。

テーマ	Sanda+ ～作ろうみんなのユートピア	あなたと私の三田 ～三田コミュニティプロジェクト
実施日	2017年12月26日(火)10:30～12:30	2017年12月26日(火)14:00～16:00
参加数	24人	28人

(当日の様子)



7. 市民活動及びまちづくりに関する調査研究事業（収益 H29：25千円、H28：6千円）

7.1. 研究受託

(1) 居場所研究会【ひょうごボランティア基金 中間支援事業助成】

地域の高齢者や子ども、障害をもつ人、ひきこもりなどのさまざまなテーマで人が気軽に集える「居場所」を作る活動や支援している人を対象に、現場での思いや工夫、苦労や課題、そして未来について参加者同士で安全・安心な対話ができる場としての「居場所研究会」を2013年度より開催。本年度は居場所の「現場」を見ることを通して、居場所の空気を感じ、よりよい「居場所」運営のためのコツとモチベーションと仲間を作ることを目的に実施した。



7.2. 市民調査支援

今期は実施なし

7.3. 学習支援ハンドブック作成 【公益財団法人ベネッセ子ども基金助成事業】

子どもの貧困対策としての「学習支援」を始めたいと考えている／既に取り組んでいる人や団体向けに、活動の手がかりとなるハンドブックを作成し、普及啓発を行った。2017年3月発行のVol.1では、主に学習支援をこれから始めたい人向けの冊子（黄）、2018年3月発行のvol.2では、既に取り組んでいる人向けの活動の見直しチェックをテーマとした冊子（緑）としている。

また、これらの冊子を活用して、立ち上げ・継続運営のアドバイザー派遣事業を展開。3団体からの依頼があり、相談支援を行った。



7.4. まちなか「資源循環」促進支援事業 ～とくに、遺贈資源仲介研究

相続財産を社会貢献に使いたいと考えている人向けに、専門家や活動団体を適切につなぎ方に関する研究を行った。主に、北摂遺言相続研究会（土業の任意団体）や認定NPO法人保育ネットワークミルクとの連携を想定したが、具体的なプロジェクト化には至っていない。

■ 管理および法人運営部門

1. 会員の状況 (収益 H29 : 54 千円、H28 : 51 千円)

正会員は、期初時点で 17 名であったが、増減なく 17 名・団体となっている。賛助会員は、1 名であった。会員の拡大を今期も取り組みたい。

2. 寄附の状況 (収益 H29 : 551 千円、H28 : 725 千円)

今期も収益の約 15%を占めるなど法人運営の土台となりつつある。今後の活動に充ててほしいと活動謝金をそのまま寄付してくださった方も多くいらっしゃった。支援の広がりをお願いしていききたい。

3. 会議に関する事項

総会および理事会を下記の通り実施。理事会ではメーリングリストで情報共有・意見交換を適宜行っている。

	日 時	会場	備 考
総 会	2017 年 10 月 15 日	三田ほんまち交流館「縁」	通常総会
理 事 会	2017 年 9 月 1 日	ほんまち事務所	
	2018 年 4 月 2 日	ほんまち事務所	

4. 他団体との連携・協力

以下の組織・ネットワークに所属し、適宜情報交換や事業連携を行っている。

- 車瀬橋商店街 (以下は大島が個人で受けているもの)
- 三田本町通商店街 (準会員)
- 三田市商工会
- ひょうご子育てコミュニティ
- ひょうご市民活動協議会
- 阪神北中間支援ネットワーク
- 三田地区県民交流広場「じばやん倶楽部」運営委員
- 三田小学校コミュニティスクール運営協議会 運営委員
- 三田市社会福祉協議会 評議委員
- 大阪ボランティア協会 情報誌「Volo」編集委員
- コープともしびボランティア振興財団 運営委員
- 三田市/市社協 地域福祉計画審議委員会 中期見直し委員【新】
- 神戸市認定 NPO 取得支援アドバイザー
- 神戸市 NPO 活動支援アドバイザー

■ これまでの業績推移

	収益	経常収支差額	主な事業等
平成 18 年度	6,192,761	△960,814	市民活動推進プラザ運営
平成 19 年度	9,339,984	137,083	地域 SNS「さんでい」立ち上げ
平成 20 年度	17,329,561	△347,523	総務省「地方の元気再生事業」
平成 21 年度	17,053,023	66,850	
平成 22 年度	49,197,634	△2,257,061	総務省「地域 ICT 利活用広域連携事業」。他、3つの緊急雇用事業
平成 23 年度	20,208,730	△961,253	市民活動推進プラザ、受託終了。ほんまち移転
平成 24 年度	5,412,920	△1,222,338	ひょうごコミュニティ財団設立支援
平成 25 年度	4,823,671	407,254	居場所研究会、まなびあ設立
平成 26 年度	3,470,315	630,174	中堅スタッフ育成、ベネッセ助成金、まなびサテライトスクール
平成 27 年度	4,228,054	717,566	気づきの事例検討会、
平成 28 年度	4,180,558	116,841	対話の場づくり・フューチャーセッション、がんばりタイム
平成 29 年度	4,134,888	313,566	学習支援ハンドブック、遺贈資源仲介、都市政策演習

以上